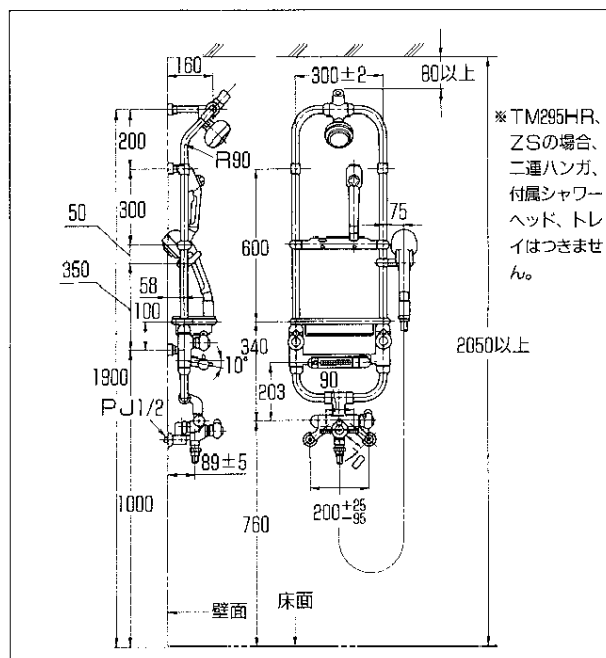
f SERIES サーモスタットシャワー金具
取付説明書

完　成　図

一 般 用（TM295GHN）（TM295HR）
寒冷地用（TM295GZN）（TM295ZS）

※品番によっては、図と現品の形状が一部異なることがあります。

使　用　条　件

1.使用水圧

(1)瞬間型給湯機と組合わせる場合

給水圧力
- 最低必要水圧……（下表参照）
- 最高圧力…………0.59MPa{6kgf/cm²}

器具入口部における最低必要水圧（MPa{kgf/cm²}）

給湯機タイプと号数			最低必要水圧（使用下限必要水圧）
比例制御タイプ	TOTOトリコン（トリコン コンタクト アクティ）	24 号	―― (0.17{1.7})
		アクティ	―― (0.17{1.7})
		スーパーアクティ	―― (0.17{1.7})
		32 号	0.23{2.3} (0.15{1.5})
	TOTO ハイトリコン	24 号	―― (0.17{1.7})
	TOTOコマンド	24 号	―― (0.16{1.6})
	TOTO ハイコマンド	24 号	―― (0.16{1.6})

〈設定条件〉
- 切替ハンドルは全開
- 給湯機設定温度：60℃
  （シャワー切替時（1ヶ所⇄2ヶ所）の温度変化を小さくするため）
- シャワー吐水温度：42℃
- 給湯配管長さ：5m
- ハンドシャワーを含め、4ヵ所のシャワーヘッドから同時吐水可能ですが、接続する給湯機の能力より、水温の低い冬期（5℃）に、2ヵ所同時吐水（適正下限吐水流量：19ℓ/min）を満足するのに必要な圧力とします。

(2)貯湯式給湯機と組合わせる場合

2ヶ所同時吐水の場合、給湯圧力が確保できないため使用できません。

- 給水圧力が0.59MPa{6kgf/cm²}を超える場合は、市販の減圧弁で0.196MPa{2kgf/cm²}程度に減圧してください。

2.給湯温度は使用する温度より10℃以上高くしてください。ただし、約70℃以上の温水は出ないようにしています。

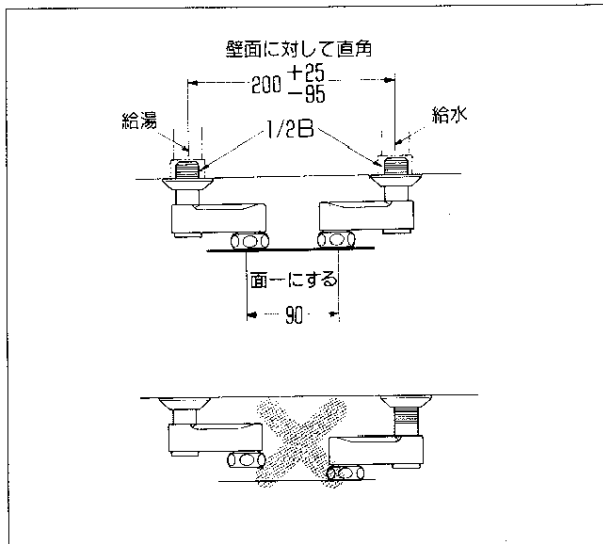
3.給湯に蒸気を使用しないでください。

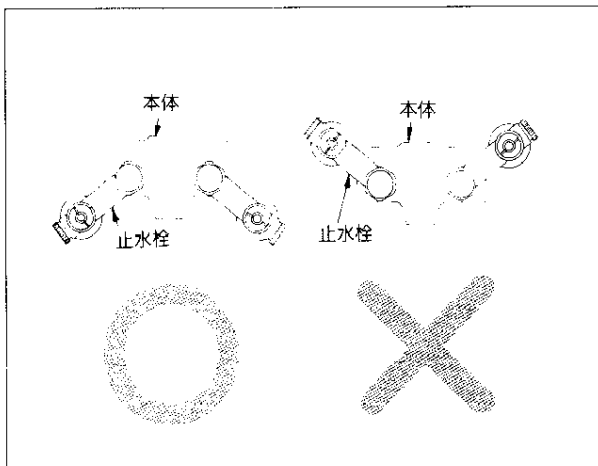
4.湯・水を逆配管しないでください。
なお給湯機からの給湯管は抵抗を少なくするため最短距離で配管してください。配管後は必ず保温材を巻いてください。

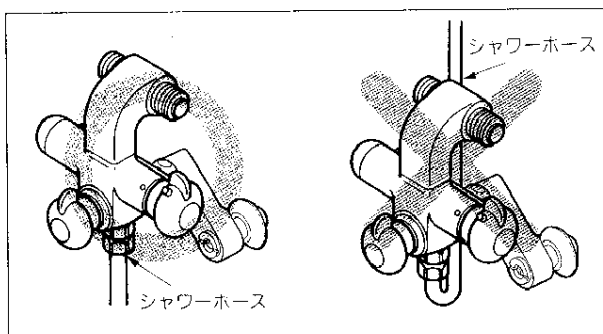
器具の取付け

1.本体部の取付け

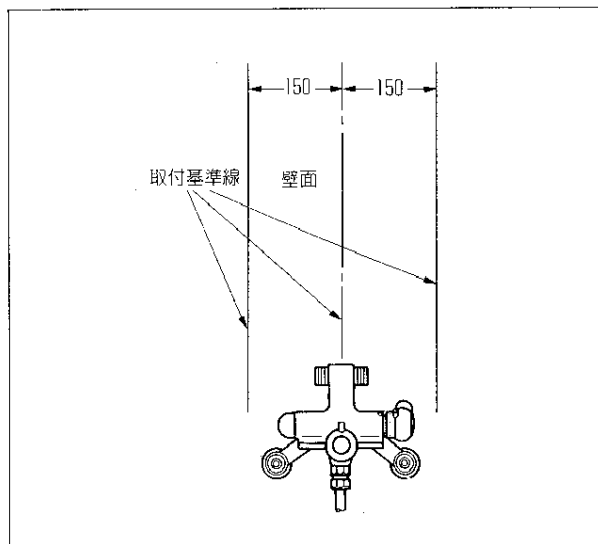
⑴給水管内の掃除

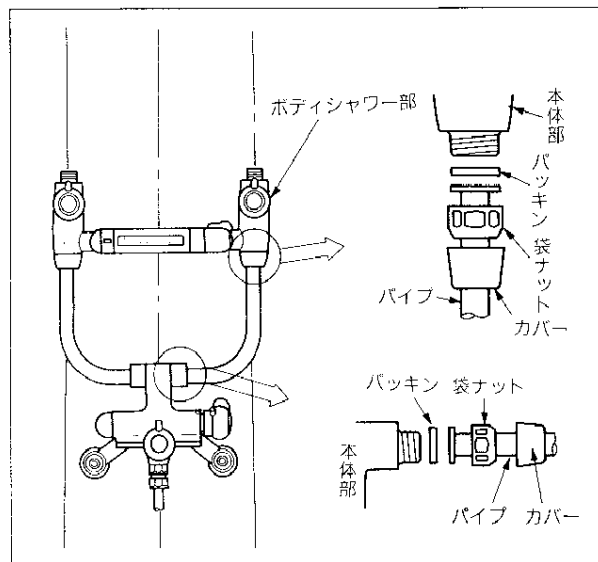
器具を取付ける前に必ず給水管内のごみ、砂などを完全に洗い流してください。

⑵止水栓の取付け

※寒冷地用の場合、止水栓の取付位置が本体よりも上になると水抜ができなくなります。

⑶シャワーホース・混合栓本体の取付け

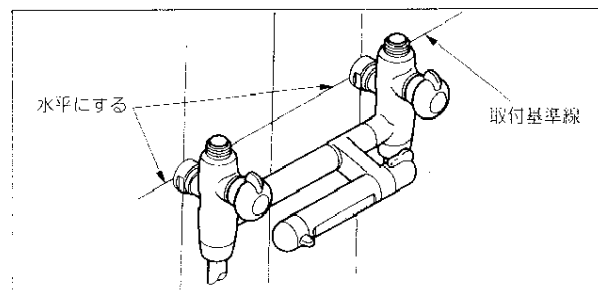
- 本体を止水栓に接続する前にシャワーホースを本体に取付けてください。
- シャワーホースが折れ曲る原因になりますので、ホースが本体裏面を通らないようにしてください。

2.ボディシャワー部の取付け

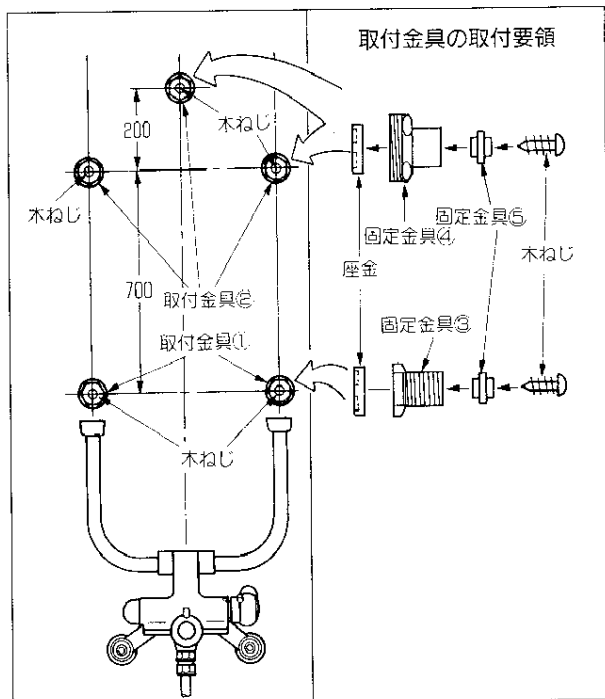
⑴取付基準線の位置決め

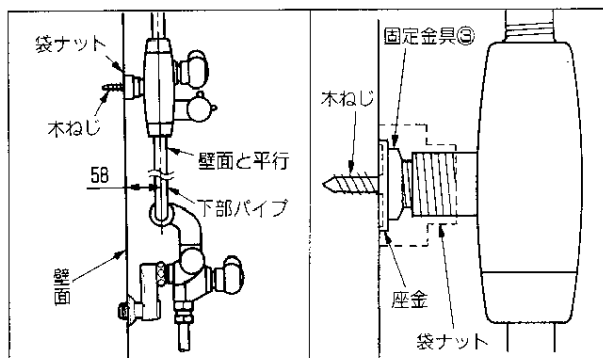
混合栓本体を基準にして下図のように、線を3本引いてください。

⑵パイプ、ボディシャワー部の仮固定

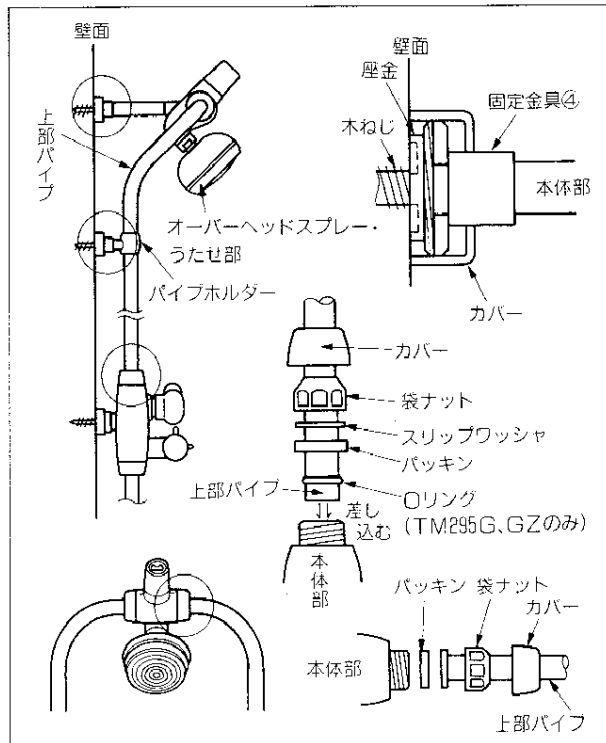
パイプを本体に取付け、さらにボディシャワー部をパイプに仮固定してください。

注）固定位置を決めるため、パイプの袋ナットは、適切な力で締付けてください。

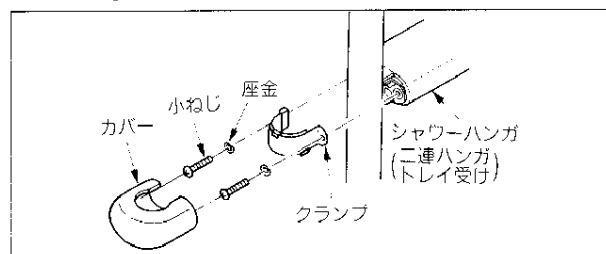
⑶ボディシャワー部の取付基準線の位置決め

ボディシャワー部の左右取付金具の高さを合わせ、その中心線を引いてください。その基準線は混合栓の基準線と直交します。

(4)取付金具の取付け

ボディシャワー部の取付け位置が決まったら、一度ボディシャワー部を取外し、その位置に、取付金具①（2ヶ所）を木ねじにて取付けてください。さらに下図の位置に、取付金具②（3ヶ所）を取付けてください。

(5)ボディシャワー部の固定

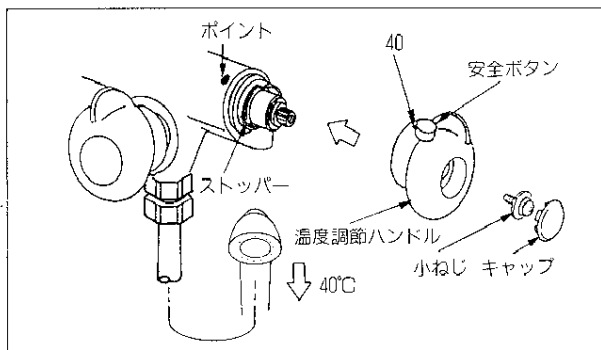
ボディシャワー部を下部パイプに取付後、取付金具①（2ヶ所）に締付けてください。この際、パイプが壁と平行になるように固定金具③を回して調節してください。最後に袋ナットを締付けて固定してください。

3. オーバーヘッドスプレー・うたせ部の取付

上部パイプにパイプホルダー、カバー、袋ナット、スリップワッシャ、パッキン、Oリング（TM295GHS、GZSのみ）を順に差し込み、パイプをボディシャワー部に差し込んで、袋ナットを締付けて固定してください。オーバーヘッドスプレー・うたせ部を取付金具②（1ヶ所）にねじ込み、上部パイプと接続後固定金具④で固定してください。パイプホルダーは取付金具②（2ヶ所にねじ込んで締付けてください。

4. 二連ハンガ、トレイ受け（TM295GHS、TM295GZS）及びハンドシャワー用シャワーハンガの取付け

下図のようにして、ハンドシャワー用シャワーハンガ、二連ハンガ、トレイ受けを、規定の位置に取付けてください。

温 度 調 節

工場で温度調節をしていますが取付現場の圧力状況などによって、ダイヤルどおりの吐水温度にならない場合があります。
その場合は次の要領で調節してください。
調節する前に次のことを確かめてください。
(a)止水栓は全開になっていること。
(b)ストレーナのごみづまりはないこと。
(c)十分な温度（使用する温度より10℃以上）の湯がきていること。

● **調節要領**

(1)シャワーより吐水させて温度調節ハンドルのダイヤル目盛に関係なく40℃の湯が出る位置まで温度調節ハンドルを回す。(高温側へ回すときは安全ボタンを押してください。)
(2)その位置で温度調節ハンドルが回らないように注意してキャップ、小ねじをはずしハンドルを抜きとってください。
なお、ストッパーがはずれたときは分解と点検の項に示す位置に正しくはめてください。
(3)温度調節ハンドルの“40”の文字をポイントに合わせてハンドルをはめ、小ねじで固定し、キャップをはめてください。

ストレーナの掃除

ストレーナがつまると吐水量が少なくなったり水又は熱湯しかでなくなるなど十分な機能が発揮されなくなります。器具取付後は、必ずストレーナを掃除してください。また、お客様にもときどき掃除していただくようにご指導願います。
注）カラー塗装品の場合は、器具の表面が、傷つきやすいので必ず付属の開閉工具をご使用ください。

お 手 入 れ

器具がいつまでも美しさを保つように、お客様にお手入れ方法をご指導ください。
1.ふだんは柔らかな布でふき、ときどきミシン油やカーワックスなどをしみこませた布でふくこと。ただし、樹脂部に付着すると光沢を失うので付着しないよう十分注意すること。
2.クレンザーやみがき粉など粗い粒子を含んだ洗剤やナイロンたわしなどは使用しないこと。
3.酸性洗剤はめっきを侵しますので、使用しないこと。もし、タイルを酸性洗剤で洗った場合は、すぐにタイル及び器具を十分に水洗いすること。

寒冷地の水抜方法

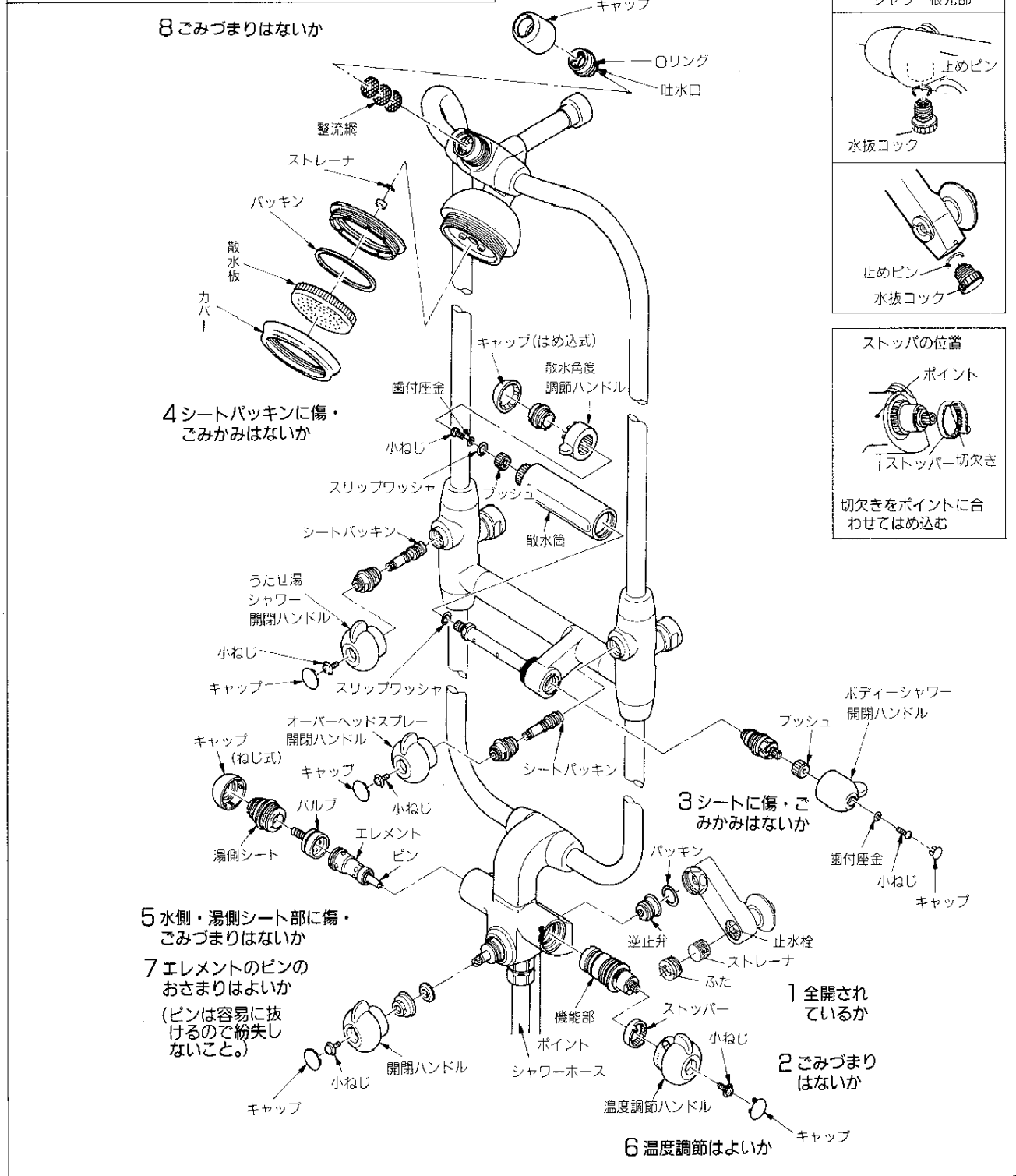
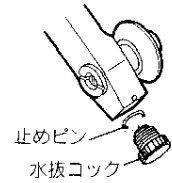
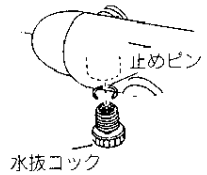
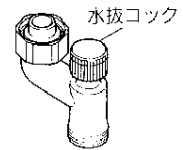
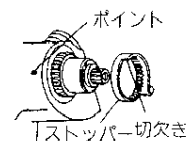
寒冷地用の場合は器具内の水を抜くため、水抜コックを設けております。凍結のおそれのある時期に施工された場合は、水抜栓の操作とあわせて付属の水抜方法ラベルの要領で水抜をしておいてください。またお客様にも水抜方法をご指導ください。

〈水抜手順〉

(1)各開閉ハンドルを開く。
(2)本体の水抜コックを全て開く。
(3)温度調節ハンドルを“H”に合わせ、水抜コックから水が出なくなってから、ハンドルを“C”側いっぱいに回す。
(4)ホース根元の水抜コックを開く。
(5)ホース内の水を抜き、シャワーヘッドを振って中の水を抜いてから床に置く。
(6)ボディシャワーは、開閉ハンドルを開き、散水部を真下に向ける。

分　解　と　点　検

取付後、万一故障などで分解する時は、次の要領で行ってください。

現　　象	点 検 項 目
流量が少ない	1.2.8
水が止まらない	3.4
高温しか出ない	1.2.5.6.7
低温しか出ない	1.2.5.6
ダイヤルどおりの湯が出ない	1.2.5.6.7

※付属のご愛用のしおり及び取扱説明書(カラー塗装品のみ)は必ずお客様にお渡しください。
手渡しできない場合は、工事完了後ハンドルなどに吊り下げておいてください。

06746S